和田~生藤山~石楯尾神社

期 日:3月11日(日)曇り

コース:和田→登山口(タクシー2060円)8:37→山の神9:52→連行峰10:57→

茅丸11:26→生藤山11:53→石楯尾神社14:09~14:10→上野原14:

27~31→八王子

参加者:M·T M·S S·S M·K C·O



| 道入り口で下車。まだ足取りも軽い。| タクシーを生藤山・醍醐丸方面への登山

堰堤工事用行き止まりの道が終わると 登山道に入る。思っていたより雪がたくさ ん残っている。昨日の雨がここでは霙だっ たとタクシーに運転手さんが言っていた。 この辺りはまだ春の斑雪。







上げ気合を入れる先頭のSさん。よーし、もうひと頑張り。稜線を見もうすぐ稜線にでる。あれが山の神。

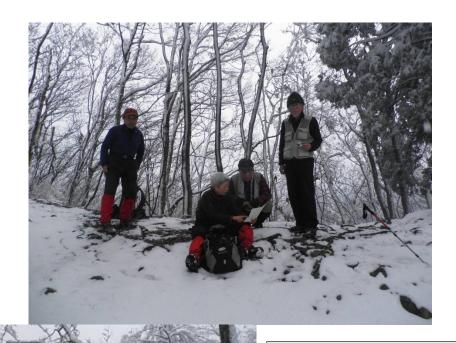


たどり着いた山の神の道標はここ一両日の寒さに凍りついていた。たどり着いた登山者も道標全体の張り付いた雪をかきむしる事は辛い作業のようだ。思いがけない幻想の中に暫し身を委ねる。



も美しい。
も美しい。
も美しい。
もの下に垂れ下がり、葉を落とした広葉樹山の神の木立。杉の枝は雪の重みに思いっ

味を確認する〇さん。稜線上の勉強会。Sさんの地形図を見ながらその印の意



山の神から先の稜線歩きが予想もしていなかった幻想と静寂の中へと私達をいざなった。静けさを破るのは自分たちのキャーとオーの叫び声。うっかりザックが木に触ると上から首筋めがけて柔らかい雪玉がボタッ!その冷たさが嬉しい?



に光と雪の競演の舞台となる。雪がキラキラと白い空間に飛び立つ。空中はまさ吹くと風に誘われて樹木に寄り添っていた春の時々現れるようになった青空。薄日がさし微風が





ら生藤山へと向かう。
ますます雪が深くなる。ときどき



やっと着いた生藤山山頂。 昼食の前にテーブルに積 もった雪払い。



熱々のラーメンもすぐに冷える。おかわりの際は温めなおすが、頭上から落ちてくる雪もコッフルにこんにちはと飛び込んでくる。



の中を進むリスマスケーキのモミの木のような樹林お腹の中から体を温めて、下山開始。ク



思いがけない山行となった。この日の弱い陽の光はあきらかに春の暖かさを運んできていた。